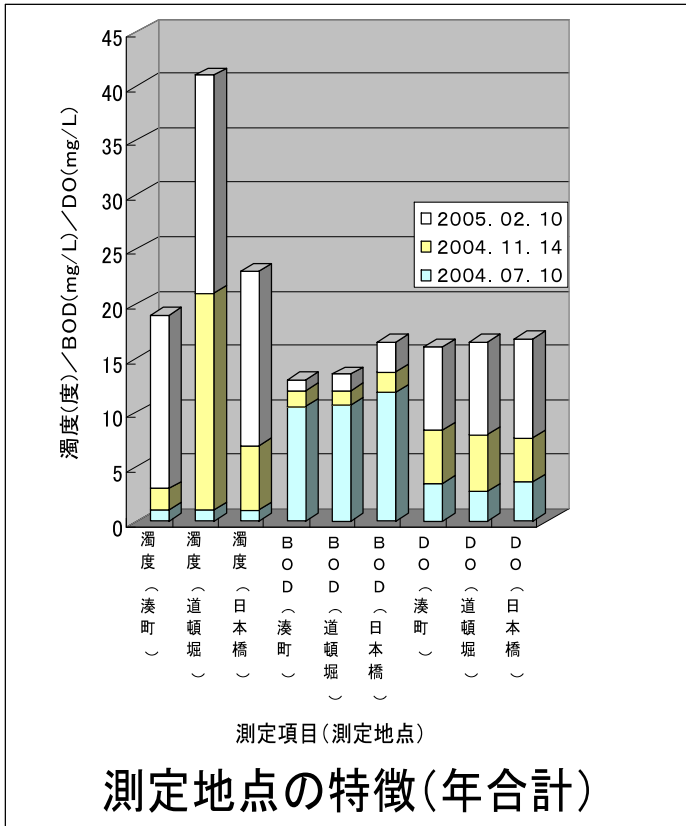


# 道頓堀川水質調査 H 1 6 年度まとめ

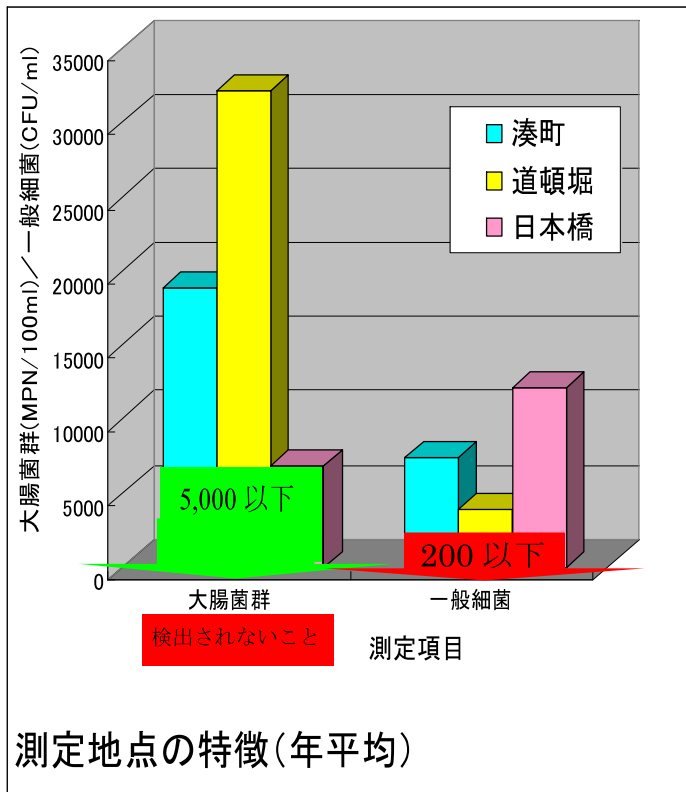
年間平均のデータを棒グラフ（下の2つの図）で示した。



この図から次のことが言える。

1. 濁度およびDOは、3地点とも2月の測定が最も大きい値となった。  
また、濁度は、3地点中道頓堀が最も高い値となった。

○水温が低下することによって、2月のDOが最も高い値を示したことは理解できる。濁度の上昇は道頓堀橋付近で工事が行われていた事が原因の可能性とも考えられる。今後、測定結果と周辺環境から主たる原因を追求すべきである。



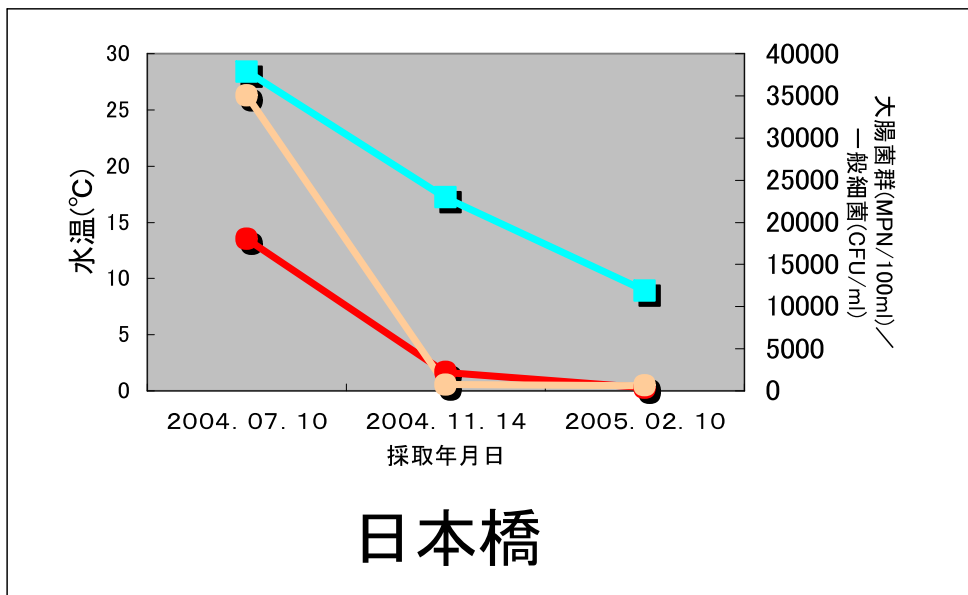
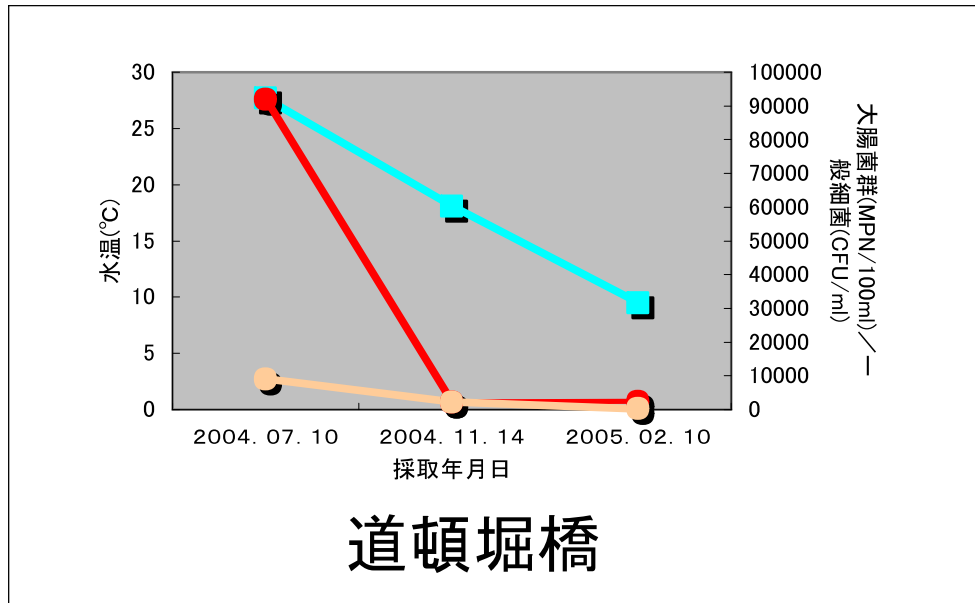
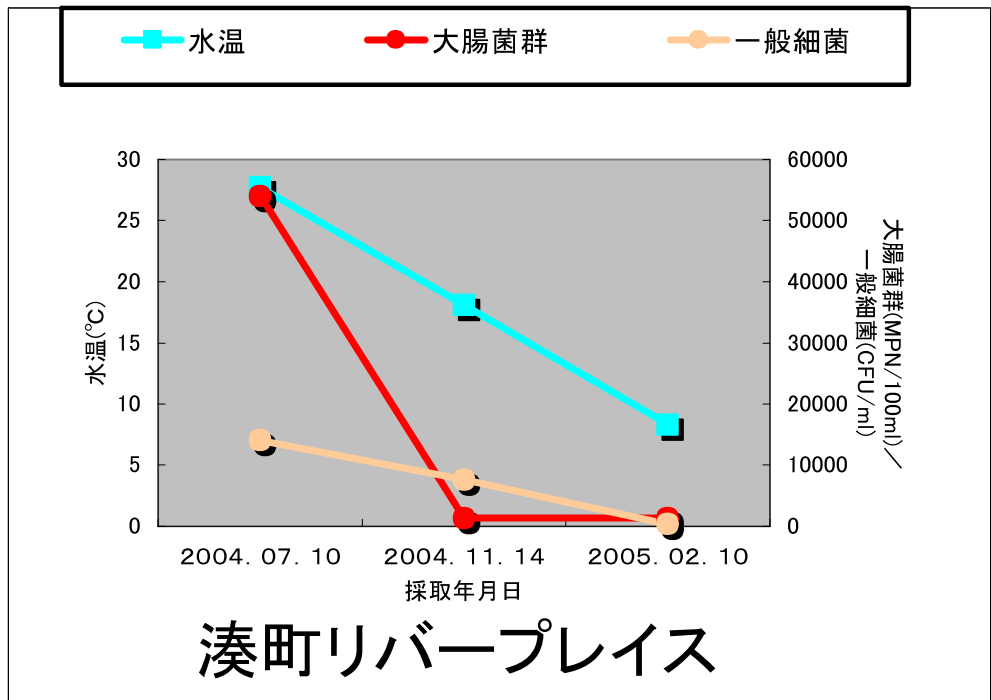
2. 大腸菌群、一般細菌数は3地点とも7月が最も大きい値となった。しかし、測定地点によって次のような違いが生じた。

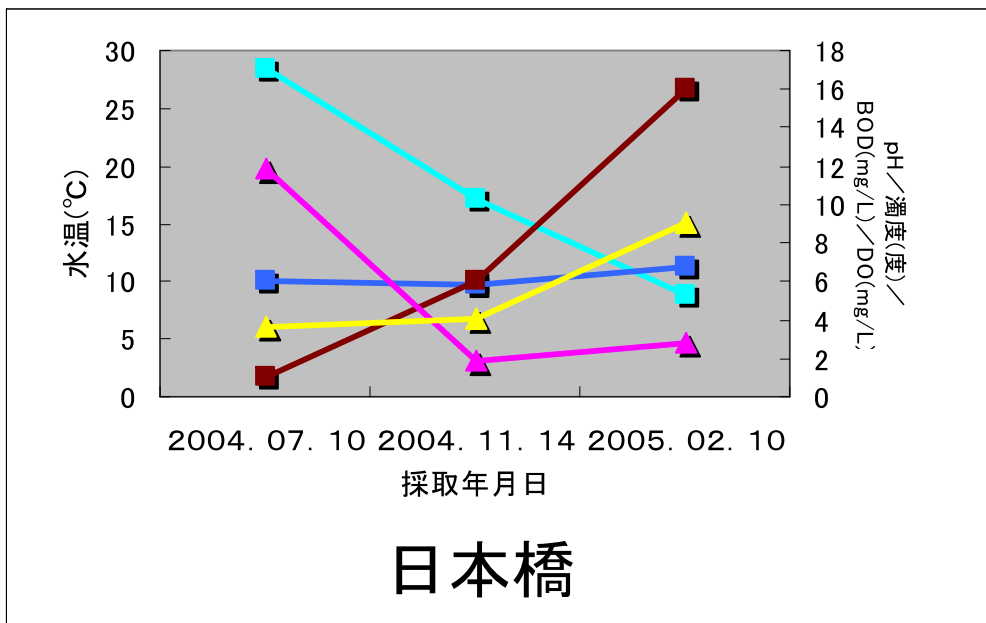
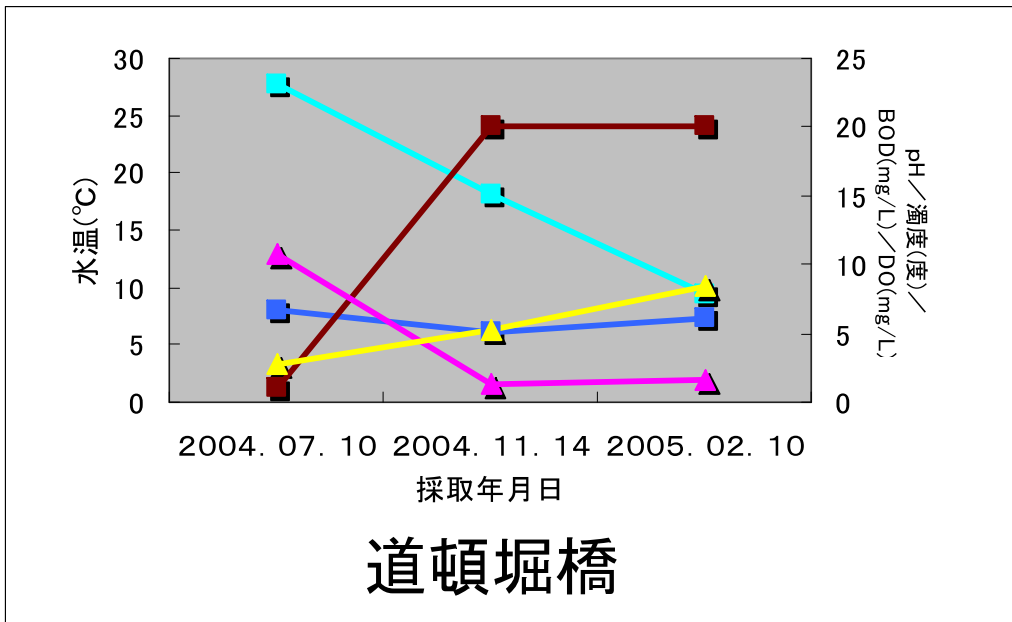
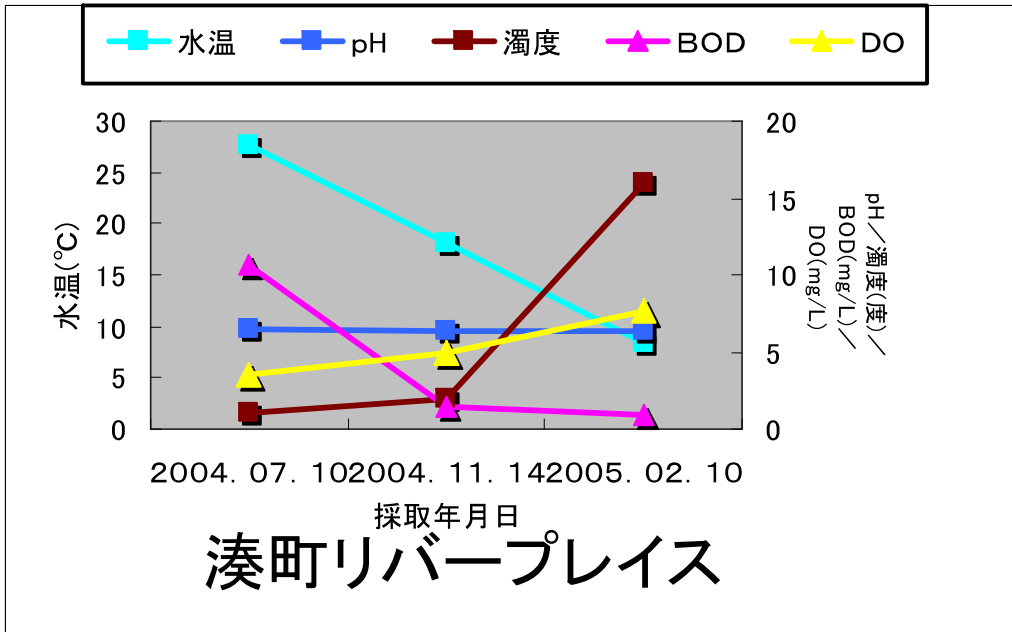
○道頓堀橋は、3地点のうち大腸菌群数が最も高い値となったが、一方で一般細菌数が3地点で最も低い値を示した。それと全く反対の挙動を示したのが日本橋である。日本橋は大腸菌群数が3地点で最も低い値であるが、反対に一般細菌数は最も高い値を示している。

○微生物の生育条件には、pH、温度、酸素が大きく影響するが、この2つのこれまでの値から、上記の根拠を導き出すことは出来なかった。今後の測定結果から判断していきたい。

環境基準(河川) B類

遊泳プール水質基準





# ま と め

3地点、全3回の結果から以下のことが確認できると思われる。

- ①夏～秋～冬にかけての水温低下
- ②水温低下に伴うDO値の上昇およびBOD値・大腸菌群数・一般細菌数の減少
- ③pH、濁度は水温と無関係

※参考 美しい川になるには・・・

DO → 上昇

BOD → 減少

大腸菌群数 → 減少

一般細菌数 → 減少

以上の結果から7月に採取した水と比較し、一見、総合的に水質改善が図られたと考えられるが、これらの検査項目は、水温の影響を大きく受けるため、次年度も同じ時期にサンプリングし、測定結果を今年度の値と比較し、本当の水質改善が図られているかを見極める必要があると思われる。